

かわら版あおば消防通信 39号

平成29年2月発行：横浜市青葉消防署 協賛：青葉火災予防協会

東日本大震災から6年をむかえます

東日本大震災（正式：東北地方太平洋沖地震）から、まもなく6年が経ちます。この災害で甚大な被害が発生し、現在も避難生活を送っている方々があります。

そこで、横浜でいつ発生してもおかしくない大地震に備えて、自分や家族を守るために、ご家庭でできる準備をしておきましょう。

●食料や衛生用品等の備蓄をしましょう

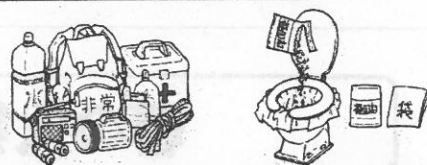
大地震が発生すると食料や日用品など通常の物資供給は断たれてしまいます。

また、各避難所へ物資が届くまでにはさらに時間がかかることが予想されます。そのため、ご家庭でも必要な食料などを備蓄しておきましょう。

【備蓄品はできれば7日分！】

災害時に備えて、普段から必要なものを家族構成に合わせて備蓄し、定期的に消費期限を確認しましょう。また、備蓄品はできれば7日分、最低でも3日分が必要です。

- ① 飲料水は、一人1日3L
- ② 非常用食料（缶詰、レトルト食品等）は、1日3食
- ③ 調理用のカセットコンロ（予備ボンベも用意）
- ④ 非常用トイレは、一人1日5回分
- ⑤ 女性や乳児等がいる家庭は生理用品、おむつ、粉ミルク、紙コップ、おしりふき等



特別なことをしなくても

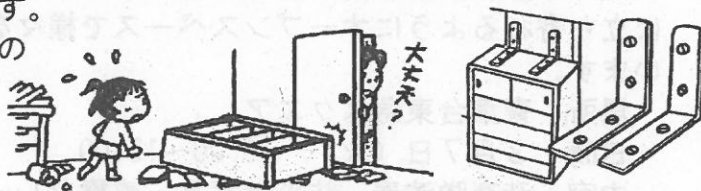
- ・ 通常の食材を多めに買って置き、消費したら買い足す「ローリングストック」で消費期限切れをなくします。
- ・ 消費期限が比較的長く、常温でも日持ちする主食（乾麺など）が非常に有効です。
- ・ カセットコンロとボンベがあれば、ライフライン途絶時にも調理できます。
- ・ ラップやウェットティッシュ、大きいポリ袋等は様々な使い方ができ重宝します。

●家具の転倒防止は減災の基本

地震が起きた時にはタンス等に押しつぶされる危険もありますが、倒れたタンス等が障害となってドアが開けられなくなる事もあります。そうなれば被害を受けた建物から脱出するのも時間がかかってしまいます。

ご自身や家族の身を守るためには、家具の転倒防止は減災行動の基本です。

家具の固定や、万が一家具が倒れた場合に備え、安全な家具の配置をしましょう。



藤が丘駅前公園 東日本大震災復興イベント

周辺の自治会、自治体、企業合同の防災イベントに青葉消防署も参加します。

場所：藤が丘駅前公園（藤が丘1-29-1）

日時：3月12日（日） 10:00～15:00

内容：起震車による地震体験

